

提言第9号 入院中に発生した転倒・転落による頭部外傷に係る死亡事例の分析

事例7

< 事例概要 >

- ・心筋梗塞のため経皮的冠動脈形成術（Percutaneous coronary intervention 以下「PCI」）後の80歳代の患者。死亡時画像診断（Ai）無、解剖 無。
- ・転倒・転落歴 無。抗血小板薬（2剤）、睡眠薬、抗精神病薬内服中。軽度の記憶障害はあるが、意思疎通は可能。頻尿・夜間排泄行動 有。
- ・転倒・転落リスク評価 実施、病棟移動後の再評価 無。予防対策として、ベッドの高さを調整、4点柵を使用、ベッド柵に鈴を装着。
- ・入院翌日PCI 施行し、病棟を移動した。その後、興奮、多弁、多動あり、睡眠薬を内服し入眠。2時間後にドンと音があり、ベッドサイド床に仰臥位で倒れている状態で発見。声掛けに反応あり、指示動作は可能。頭痛あり。その直後に両上下肢麻痺出現、会話不可能となり、CT 実施。急性硬膜下血腫・切迫脳ヘルニアと診断。転倒・転落翌日死亡。